

飛雲閣 畳の表替え 修復過程



三十六歌仙 素性法師

①板締め作業

古くなった畳表を取り外して緩んだ頭板を畳糸で締め直します。へこみ等をなくした後、寸法を調整します。



締め直し作業の様子

締め直された畳床



②框綴じ作業

畳表を乗せ、たるまないようにしっかりとりつけ、縁のついていない畳の端を縫い付けます。



畳表を固定

縫い付けの様子



③平刺し(縁付け)作業

職人は「手あて」と「畳針」という道具を用いて、畳の縁に高麗縁を縫い付けます。畳針の長さは4寸5分(約13.5cm)です。



平刺し(縁付け)作業の様子

使用している手あてと畳針



畳縁

飛雲閣の畳縁は高麗縁が取り付けられています。紋縁は隣同士の紋の位置が合うように寸法を見て調整しています。



飛雲閣で使用している畳縁

修復後の歌仙の間



三十六歌仙 清原元輔

